沖縄で商機つかめ

第2回沖縄大交易会

経済発展が目覚ましいアジアへの販路拡大に期待を寄せる出展企業と高品質の「メード・イン・ジャパン」製品を求めるバイヤーが一堂に会した第2回沖縄大交易会。200社の出展企業、16の国と地域から163社のバイヤーが参加するなど、国内最大級の国際商談会として活況を呈した。一方、参加企業からは商談時間の延長や規模拡大、継続開催を求める声や那覇空港の国際物流ハブ機能の活用を望む声が相次いだ。

規模拡大求める声も

プレ交易会から参加しているJCC（糸満市）はカレーや中味汁などレトルト商品の販路拡大を模索している。同社の我那覇剛係長は「新しい機械をことし9月に導入した。味の質、賞味期限の長さなど魅力をPRしたい」と展望した。今回出展企業のブースを固定したことについて「商品を展示したディスプレーを準備できるので、商品を見せながら商談できる。ただ商談時間がもっと長いとさらにいい」と語った。

京都の農家で組織する京丹後農産物販売促進部会は今回初参加した。事務局の森下裕之さんは「海外のバイヤーと直接交渉する機会は貴重なことで非常に良かった」と語る。同部会は主に関西方面に無農薬野菜などを出荷しているが、アジアへの進出を見据える。森下さんは「バイヤーはこだわりの商品を求めている。相手が求める物を出していきたい」と話した。

シンガポールを拠点に東南アジアのホテルやレストランに食材などを卸している。洪徳財社長は「那覇空港を経由することで輸送費を下げられ、少量でも日本各地の高品質の食品を輸入できる」と語った。また、「沖縄は健康長寿の島で、食品の質も良い。ただ、今はフェアなどでしか沖縄の食品を販売してない。もっと沖縄の知名度を高める必要がある」と話した。

マレーシアなどで日本料理店を展開するRE&S（本社シンガポール）の日本法人でバイヤーを務める中島しのぶさんは「大交易会の魅力は出展企業とバイヤーの多さだ」と満足げに話した。一方、食品加工品を取り扱うエムケートレーディング（大阪府）の桑久保雅巳社長は「大交易会はローカルの企業が多く、商品の完成度が低い。規模を大きくし、大手も含めて完成度の高い食品を製造する企業に参加してほしい」と語った。

有名特産品と県産品コラボ

日本のおいしいもの展

国内最大級の国際食品商談会「第2回沖縄大交易会」と併設して、県物産公社と沖縄総合事務局は26日、日本の特産品を集めた「日本のおいしいもの展」を宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開いた。

県産品と日本産品のセット販売を集める日本のおいしいもの展＝26日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター

「Rosen International」は、那覇空港を活用した日本食品の取り込みに期待を寄せる。洪徳財社長は「那覇空港を経由することで輸送費を下げられ、少量でも日本各地の高品質の食品を輸入できる」と語った。また、「沖縄は健康長寿の島で、食品の質も良い。ただ、今はフェアなどでしか沖縄の食品を販売してない。もっと沖縄の知名度を高める必要がある」と話した。

マレーシアなどで日本料理店を展開するRE&S（本社シンガポール）の日本法人でバイヤーを務める中島しのぶさんは「大交易会の魅力は出展企業とバイヤーの多さだ」と満足げに話した。一方、食品加工品を取り扱うエムケートレーディング（大阪府）の桑久保雅巳社長は「大交易会はローカルの企業が多く、商品の完成度が低い。規模を大きくし、大手も含めて完成度の高い食品を製造する企業に参加してほしい」と語った。

レセプションに700人が参加

沖縄と本土の経済人でつくる沖縄懇話会と沖縄大交易会実行委員会は26日、第2回沖縄大交易会の歓迎レセプションを宜野湾市のラグナガーデンホテルで開いた。国内外から集まったバイヤーや出展業者のほか、経済界関係者ら約700人が参加した。

沖縄大交易会に出展した企業60社の提供した食材を使って、ラグナガーデンの総料理長が調理したオリジナル料理が披露された。石垣島のクロレラ汁入りうちなーみそ汁や、シークヮーサー酢を使った県産野菜のピクルスなど、多彩な料理に参加者らは舌鼓を打った。出展企業はフードショーと同時に自社製品をPRした。

「国際見本市目指せ」

沖縄懇話会 眞銅ジェトロ理事が講演

沖縄のマイス施設の在り方について講演する日本貿易振興機構の眞銅竜日郎理事＝26日、ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

沖縄と県外の経済人でつくる沖縄懇話会は26日、那覇市のANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービューで第26回総会と会員懇談会（ラウンドテーブル）を開いた。「国際見本市都市『沖縄』をめざせ！」をテーマに、日本貿易振興機構（ジェトロ）の眞銅竜日郎理事が講演した。

眞銅氏は、2020年度マリンタウン地区に完成予定の大型MICE（マイス）について「沖縄ほど地理的優位性のある都市は世界どこを探してもない。大交易会の発展は、国際見本市の発展に直結する」と述べた。

同日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた国際食品商談会「第2回沖縄大交易会」について「商談会からさらにレベルアップし、見本市レベルに引き上げる必要がある。継続開催することで、世界中で評判が広がり定着していく」と指摘した。

日本国内のマイス施設と世界を比較した上で「規模が大きければいいものでもなく、稼働率を高めることが重要だ」と述べた。

さらに「沖縄国際映画祭の開催に合わせた商談会開催なども魅力ある」と提案した。

沖電1月料金120円下げ

沖縄電力（浦添市、大嶺満社長）は26日、2016年1月の標準家庭（月間使用量300キロワット時）の電気料金を前月から120円引き下げ、7913円にすると発表した。原油や石炭価格の下落が影響した。

中城湾港にクルーズ船

来年4～10月、11回予定

スタークルーズ（本社・香港）のクルーズ船「スー パースター・リブラ」（約4200トン、定員1400人）が2016年4月～10月、中城湾港新港地区へ計11回寄港する計画を立てていることが26日までに分かった。同湾港へのクルーズ寄港は11年以来の5年ぶり。船舶代理店の沖縄シップエージェンシー（那覇市）は「（観光客に）好評であれば、今後も中城湾港への寄港が継続されるだろう」と話した。

同社によると、那覇市若狭にある那覇港クルーズ船専用岸壁の予約が取れないため来年一部を中城湾港へ変更したという。26日、県、沖縄シップスエージェンシーなど関係機関はクルーズ船が中城湾港へ寄港する際の安全対策会議を開いた。

人材育成の現場 ○6○

立県への礎

レキサス (下)

起業、アプリ開発で成果

躍動する卒業生たち

宮城省吾さん

金城廣太さん

仲田洋子さん

2007年に始まり、今期で7期目を迎えた次世代のリーダー育成事業「リュウキュウフロッグス」。これまで輩出してきた意欲ある若者たちは、今も歩みを続けている。

5期生の宮城省吾さん（26）は7～9月、経済産業省の起業家育成プログラム「始動」に1期生として参加した。全国から350人以上の応募があり、宮城さんはそのうちの122人に勝ち残った。選出者はトヨタ自動車や東芝、ニコン、みずほ銀行など大手企業の人材が大半を占めた。

選抜基準は、提出する事業案の革新性や社会に対する貢献度だ。宮城さんは、人間が物事を覚える際に、記憶の定着に最も適した間隔でその物事を繰り返し表示するサービスを紹介した。学習や広告などへ活用を見込む。事業では、イデアを持っている人ばかりで、とても刺激を受けた。記憶補助のアイデアを事業化し、誰でも学習ができる環境をつくりたい」と意気込む。今は英語力を生かし、県内ホテルで働く。資金を集め、1年後をめどに起業する考えだ。

同じく5期生で琉球大学工学部3年の金城廣太さん（21）はメンバー同士の衝突だ。僕も何度もぶつかった。初めて人の価値観を理解することを知り、アイデアを形にする過程に興味を持てるようになった」。研修中に学んだ議論と調和の心得は今も胸に残る。

既に起業した卒業生もいる。6期生で昭和薬科大付属高校1年の仲田洋子さん（16）は5月、企業「カッシーニ」を設立し、国内外の各業界で活躍する県出身者を紹介するサイト「ロールモデル沖縄」を2年前。「フロッグスの醍醐味は4月、サービス開発チーム「SUTA（スタ）」を他の琉大生2人と立ち上げた。チームではプログラミングをする技術者の役割を担う。近く第1弾となる日程管理の補助アプリをアップルストアから配信する予定だ。

フロッグスに参加したのは2年前。「フロッグスの醍醐味は、大手企業役員らの講演や選出者同士の議論を通し、計画力や伝達能力などを養った。

宮城さんは「さまざまなアイデアを持っている人ばかりで、とても刺激を受けた。記憶補助のアイデアを事業化し、誰でも学習ができる環境をつくりたい」と意気込む。今は英語力を生かし、県内ホテルで働く。資金を集め、1年後をめどに起業する考えだ。

同じく5期生で琉球大学工学部3年の金城廣太さん（21）はメンバー同士の衝突だ。僕も何度もぶつかった。初めて人の価値観を理解することを知り、アイデアを形にする過程に興味を持てるようになった」。研修中に学んだ議論と調和の心得は今も胸に残る。

既に起業した卒業生もいる。6期生で昭和薬科大付属高校1年の仲田洋子さん（16）は5月、企業「カッシーニ」を設立し、国内外の各業界で活躍する県出身者を紹介するサイト「ロールモデル沖縄」を2年前。「フロッグスの醍醐味

設立した。11月中にも歌手やデザイナーら約10人へのインタビュー記事をアップする。

フロッグスでは著名な起業家や投資家に出会い「世界が広がった」。「私の経験を周囲にも感じてほしい。サイトを見た人が『私でもこうなれるかも』と思ってくれたらうれしい」と言う。県内で成功事例をつくり、将来的には他県への事業展開も構想する。

周囲も巻き込みながら、自分磨きを続ける次世代リーダーの卵たち。フロッグスの理事長を務めるレキサスの比屋根隆社長は「沖縄の自立経済に向け、私たちが目指す地域と世界基準の両方の感覚を持った人材が徐々に出てきた」と語る。情熱ある若者たちの躍動から目が離せない。

（長嶺真輝）

（木、金曜掲載）

リーガロイヤルグラン沖縄 米投資会社が買収

米投資会社モルガン・スタンレーが運用する不動産ファンドの関連会社が、那覇市旭町のホテル「リーガロイヤルグラン沖縄」の所有権を取得していたことが26日までに分かった。同ホテルの経営会社グランホテルオペレーションの全株式を、金秀本社（那覇市、松本真一社長）から買収した。所有・経営権は移ったものの、ホテルの運営は引き続きロイヤルホテル（大阪市）が担い、リーガロイヤルブランドや従業員の雇用に変更はない。

金秀本社からの譲渡は10月30日付で、売却価格は非公表としている。

リーガロイヤルグラン沖縄は2012年6月に開業し、モノレール旭橋駅周辺の再開発事業「カフーナ旭橋」の6～14階に入居する。客室は157室。国内名門ブランドへの運営委託による高級ホテルで、直近では外国人観光客の宿泊利用の伸びもあり4月から10月末の稼働率が85%と高水準で推移していた。モルガン・スタンレー広報は「個別の案件には答えられない」とした。

利用少ない人の料金引き下げを

携帯電話の有識者会議

総務省は26日、携帯電話の料金引き下げ策を議論する有識者会議の第4回会合を開いた。通話やデータ通信をあまり使わない人向けに低料金プランを設ける必要があると結論付ける方向となった。携帯を頻繁に買い替える人を優遇する仕組みを見直すなどして、使用量が少ない人の負担を減らす。

会議は携帯料金などの家計負担軽減のため、安倍晋三首相の指示で設置された。12月に結論をまとめる。サラリーマン世帯の消費支出に占める携帯などの通信料の割合は年々上昇しており、これが消費を抑制しているとの見方が政府内に強い。端末の過剰な安売りの見直しが必要だとの考えも示した。